

学校協議会の記録

【第 1 回】

日時 平成 27 年 6 月 4 日(木) 14 時 30 分～16 時 30 分

内容 今年度の取り組みと現状報告 (進行：首席)

- ① 昨年度の進路状況及び本年度の進路希望状況 (進路指導主事)
- ② 本校の生徒の状況、本年度の指導目標 (生徒指導主事)
- ③ 各学年の状況 (各学年主任)
- ④ PTA 事業計画 (総務部長)
- ⑤ 昨年度学校協議会委員評価 (教頭)

〈 休 憩 〉

協議事項

- ① 平成 27 年度 学校経営計画について
- ② 平成 27 年度 学校経営計画支援に向けて(施策の提言等)

【第 2 回】

日時 平成 27 年 10 月 15 日(木) 14 時 30 分～16 時 30 分

内容 今年度の取り組みと現状報告 (進行：首席)

- ① 授業アンケート集計結果、他 (校長)
- ② 一斉配信事業 (一斉配信担当)
- ③ 進路中間報告 (進路指導主事)
- ④ 生徒の状況 (生徒指導主事)
- ⑤ 保健室利用状況 (保健主事)
- ⑥ 翔南祭について (生徒会部長)
- ⑦ 教科書採択結果 (教務主任)
- ⑧ 各学年の状況 (各学年主任)

〈 休 憩 〉

協議事項

- ① 「学校改編(普通科専門コースの設置)」について
- ② 「アクティブラーニング」：積極的な学びについて

【第3回】

日時 平成28年1月28日(木) 14時30分 ~ 16時30分

内容

今年度の取り組みと現状報告 進行：(首席)

- ① 普通科総合選択制アンケート集計結果、他 (校長)
- ② 進路状況 (進路指導主事)
- ③ 生徒の状況について (生徒指導主事)
- ④ エリア人数の推移について (ガイダンス室長)
- ⑤ 各学年の状況 (各学年主任)
- ⑥ 学校教育自己診断アンケート集計結果 (教頭)

〈 休 憩 〉

4 協議事項

- ① 「学校教育自己診断アンケート集計結果」を受けて
- ② 「りんくう翔南高校の将来」に向けて

■【委員よりの提言】

第1回 平成27年度6月4日(木) 14時30分 ~ 16時30分

○ビオトープエリア

(委員の質問に対して) 改修予算は出ない。頓挫している状態である。ビオトープに面した化学準備室については現在試験的に網戸を付けた状態で、抜本的な解決はまだである。現在のところ予算面からも難しい。本校舎は昭和45年くらいに建てられ、建て替えは50年が基準となっているが、府の財政の関係で80年になった。知恵を出してやっていきたい。

(委員より) 部活をやっている子を集めてやるのもありでは？草刈くらいはできるのでは？お金がないと言っているが、生徒にやらせるのもありかと。人材はある。部活をやっているから力もあるし…

○部活動について

ニーズは変わってきている。ダンス部やパソコン部など、教師がついていけない部活もある。生徒との接点を持つためにもクラブ指導は大切である。気の合った友達とチーム人数が増えている。社会体験と学校体験がうまくマッチしているクラブは人数が増えていると思う。流行や社会ニーズ、世論がそういう風に導く。教師が努力しても難しい部分がある。全国大会等に行っているというネームバリューがあるところに行きたがる。最近そういった保護者が多い。就職に関する講話も、みんな報酬のことしか気にしない。しんどい系のクラブは少なくなるのは仕方ないと思う。親が現実を見ることできていない。

ただ、部活動も元気になったら学校も元気になるのでは？ 生徒も落ち着いてきて進路にも役立つのでは？ 部活によっては将来につながる。仲間とのコミュニケーションがとれる。その際、アルバイトをしている人の割合は何%か調べるといい。「りんくう翔南へ行ったらバイトできる」という感覚があるのでは？そういう実態が子どもの中にはあると思う。その率が下がらない限り、クラブ率は上がらない。

クラブだけでなく、ボランティアができる生徒もいるので、その面もアピールしては？

小学校で学習支援、土曜日、月1回の年6回、子どもの居場所づくりをしているが、りんくう翔南の生徒もボランティアに来てくれている。生活が厳しい児童は、りんくう翔南の生徒が、関わりながら声をかけてくれるだけでも、子どもにとってはうれしい。小学校でも将来を考える時に身近なモデルが少ないので、また来てもらいたい。

第2回 平成27年度10月15日(木) 14時30分～16時30分

○学校改編

・アクティブラーニング教室を具体的イメージ

現在は講義形式的な授業で、先生が前で話したり板書したりするのを生徒が聞く「一方向」的である。しかし今後友達同士で意見を交換したり、グループワーク的なことをやっていく。生徒の主体的な授業をイメージしている。プロジェクターやWi-Fiなどつけていきたい。このチャンス(学校改編)を大切にして変化していけたらいい。管理的な授業で、生徒を大人しくやらせるのが微妙になってきた。調査研究を学びの場にできたらいい。

(委員の世代の)自分の受けた教育は管理されたものなので、アクティブにして進学率が上がるのかという気持ちがある。日々私は生徒に接していないので、我々にはわかりにくい。パワーポイントを使うようになってICT教育が大事になってきている。寝屋川ではリアルタイムの発表などをパワーポイントで行っている。ネットの利用ではフィルタリングをかけたらいいとなっているが、子どもからの指摘もある。子どもの方が学習レベルが高い、保護者や教師など大人の方が、情報機器に疎い。個人情報等もいろいろ危ない。

子どもたちはわかっているのに、大人がわかっている。大人が知らないと……。 (生徒は)いらんことをして、個人情報出している。ルールづくり、しっかりとしたルールを作らないと。マックブックやiPadなど。(校長より「就職もいるので、うちの進路保障で、アクティブラーニングルームを活用して、Wi-Fiで求人票なども載せられるように、この教室も使っていきたい。」)

・生徒指導、学習指導

生徒指導でも、就職などのイメージを持って指導されているのがわかるが、教員は大変。現在でも30～40年前からいただいている会社もあってすごい。教員が面接指導だけでなく、1人1人大事に思って指導されているからこそ、全体の指導になる。表面的にはスマホとか使っていけるが、まだまだ幼いので細かく見てやってもらいたい。今年始め、県議員の事例発表をしていたが、県の役人の発表はみんな聞いていない。高校生も帰っていた。3日目の全国高校生サミットでは、高校生のパワーポイントが面白かった。ワークショップ形式でやっていた。SSHの学校だけでなく色々な学校でできたらいい。見守り隊でコーディネートする役割だが、全国で大きくできている。そのようなところで発表しようという発想があれば(良いのでは……)、うまく引き出してやったらいい。

第3回 平成28年1月28日(木) 14時30分～16時30分

○「学校教育自己診断アンケート集計結果」を受けて

泉南高校と比べ、ずいぶん変わった。世の中の全体を見て、高校生だけでなく、小学生～大学生(院生)見ていると、おとなしくなった。真面目になった。失敗しないようにする、違うことをするのに不安があると感じられる。

無理なくてよいという地域。だが、地域に貢献してくれる人材が育っているが、もう少し上を目指してほしい。教育でくすぶっているものを引き出せないのか。教育の場で、(他人である)先生との会話で引き出してほしい。生徒に何をしたいのかを聞いてあげて答えてあげてほしい。生徒は大学などがどのような進学先なのかがわからない。やりたいことを持っている生徒を見つけてあげてほしい。まずは目指すことを意識させてあげてほしい。教師だけが頑張ってもできないので、専門分野の人を呼んであげてはどうか。生徒、保護者の結果で差が開いていない点も注目すべき。部活もあまり活発ではないと。難しい問題ではあるが、この点を上げれば学力向上にもつながるのではないか。

部活動を一度やめて二度目に入るのはなかなか難しいので、二度目も入る機会を学校側で用意してあげてはどうか。生徒指導については、少しでも頑張りたいと考えている生徒に合わせてあげるとよいと思う。言葉を知らないケースが多々あるので、わからない言葉についてしっかりと対応してあげないと、言葉の点でつまとそのまま授業の内容がわからなくなってしまう。より教師側の準備が重要となってくると思われる。

大学の進学、国公立を目指したいと思う生徒が本校を本当に目指して入ってくるのか。「アルバイトができるや自由である」とかの声が聞こえてくる。コミュニケーション能力の向上を目指すのが本校の特色である。今の子供たちは言いたいことがあっても言わない。コミュニケーション能力が社会に出たときにより重要である。クラブ加入率よりもコミュニケーション能力の充実の必要性を保護者としては感じる。

受験対策授業などを特別に実施することはできないのか。分けてあげるのはどうか。統一的な教育より個々に特化した授業を与えてあげるのがよいのではないのか。授業が面白いとかわかりやすいなどが求められる。しっかりとした先生を育てることも。小中学校でも求められている。

泉南地域の(地理的な)位置としても進学は難しい。大学体験ツアーというものを実施し、大学の雰囲気を知る機会を作ってみるのも良いのでは。

授業の状況で、目標を持った生徒を送り出せているのかが重要になってくるのではないか。進学がすべてというわけではないが、大学進学が少ない要因として、大学を知らないというのがあるのでは

ないか。大学や専門学校の中途退学の率は専門学校の方が倍である。保護者に対しても大学を知ってもらう必要がある。入試は成長できる良い機会である。

専門学校への進学が多いが、生徒はお金を無駄にはしない者が多い。しかし、視野が狭くなっている場合があるので、もっと視野を広げてもらえば夢実現につながるのではないか。コミュニケーション能力の向上の重要性には同意できる。

言われたことはやるという生徒が多い。この点を上手く活用していけばよいのではないか。世間で言われるアクティブラーニング反映していけるのではないか。ICTを使った学習の対応を考えていないとモチベーションの維持が大変になってくると考えられる。中学生も高校生も、発表会などを通じてアクティブラーニングのようなことはよく行っている。大阪府に予算がないため、アクティブラーニングの案があっても、実現が難しい面がある。

◆ 1年間を振り返って〔学校重点目標への委員からの提言〕

1. 確かな学力の育成

「生徒がおとなしい」ということで、生徒が主体的に活動しないことにつながっているようです。主体的に活動できるようになるために「自ら表現、コミュニケーションできる」生徒を育てる方向性は進めたいと思いました。中学校でも、そのあたりを指導することも合わせて考えさせられました。今、やっている授業に関して、パワー投下する部分を明確にしていく必要性を感じました。アクティブラーニングということばだけに惑わされないことが大事だと思います。



遅刻指導など学習する姿勢づくりの土台となる部分はより徹底していく必要性を感じました。近年の高校生は、非常に狭い選択肢の中で進路を選択する傾向が強く、正直安易な気持ちで選択しているケースも多いのではと考えます。

上記、課題を打破するために下記のことが必要だと考えます。

○「いけてしまう進路先」ではなく「いきたい進路先」をめざさせる)

遅刻指導など学習する姿勢づくりの土台となる部分はより徹底していく必要性を感じました。近年の高校生は、非常に狭い選択肢の中で進路を選択する傾向が強く、正直安易な気持ちで選択しているケースも多いのではと考えます。

上記、課題を打破するために下記のことが必要だと考えます。

(「いけてしまう進路先」ではなく「いきたい進路先」をめざさせる)

○担任力の向上

選択肢を広げ、「もしかしたら、私でも行けるかも」と思わせ、志望する進路へのこだわりや学習への動機付けを行う。同時に保護者を巻き込むことも必要(はじめから指定校を希望するパターン等)⇒担任力向上のために

高校生を取り巻く進路環境饒辺かを正確に語れるか

例) ・各大学の入試難易度の変化

・教育改革で求められていること(高校生が身につけていくべき力)

◎有効な手段

◇志望校検討会……2年生10月頃より行うことで若手教員の指導力向上につながったという事例が多い(各クラス5名~10名程度生徒をピックアップし、学年・進路・担任団で志望の最適化、指導〔声かけ〕の最適化を考える場、志望校検討会の形式は各校様々である)

■生徒の「安心」の為の規範意識の醸成は大切なことだが、徹底することは力のいることだと思う。生徒の意見をこれからも取り入れて、すすめていっていただきたいと思う。

2 思いやりの心を育てる

ICT機器を“どう活用するか”を極めていく必要がある。生徒の理解を助ける為の工夫等がなされている。スマホ等のトラブルが増加している昨今、この点の指導も徹底してほしい。

3 心安らげる学校づくり

- ・地元に残って生活を全うする生徒たちを賢く育ててください。
- ・引き続き、よろしく願いたします。